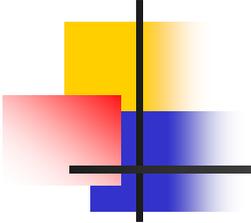


資料4

# 平成24年度 大気汚染状況測定結果

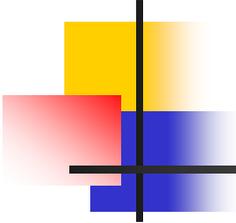
滋賀県琵琶湖環境科学研究センター  
環境監視部門



# 平成24年度の大気汚染状況

---

1. 大気常時監視測定局における測定結果
2. 有害大気汚染物質モニタリング調査結果
  - ① 環境基準設定物質
  - ② 指針値設定物質



# 大気常時監視測定局の区分

---

- 一般環境大気測定局(一般局)

→ 一般環境大気の汚染状況を常時監視する測定局。

- 自動車排出ガス測定局(自排局)

→ 自動車走行による排出物質に起因する大気汚染の考えられる交差点、道路及び道路端付近の大気を対象にした汚染状況を常時監視する測定局。

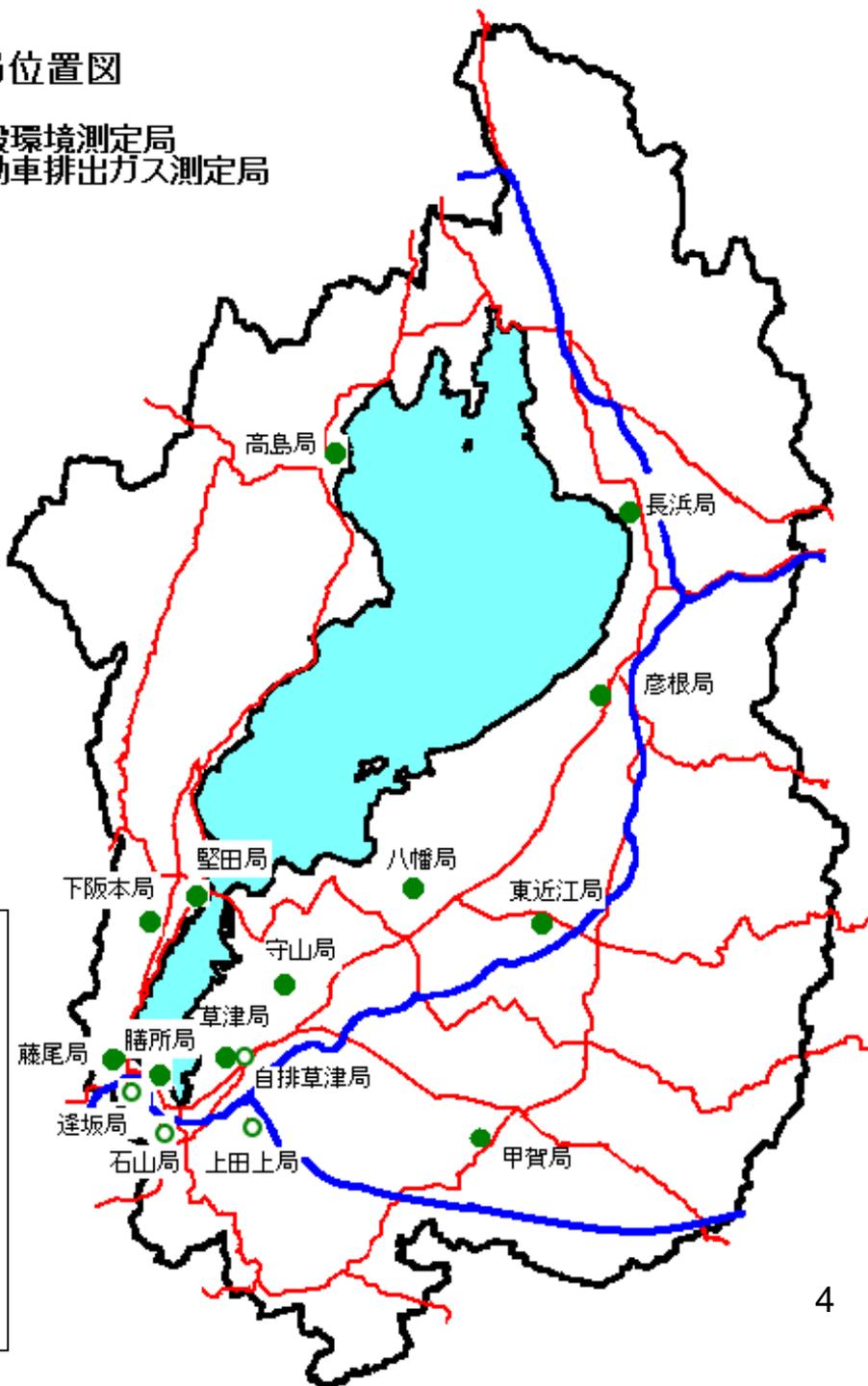
# 大気常時監視測定局



彦根局

## 測定局位置図

- 一般環境測定局
- 自動車排出ガス測定局



## 測定局の設置状況

- ◆ 一般環境大気測定局 (一般局) 12局  
(県 8局 大津市 4局)
- ◆ 自動車排出ガス測定局 (自排局) 4局  
(県 1局 大津市 3局)
- ◆ 環境測定車 1台

# 大気汚染に係る環境基準 (常時監視測定局による測定項目)

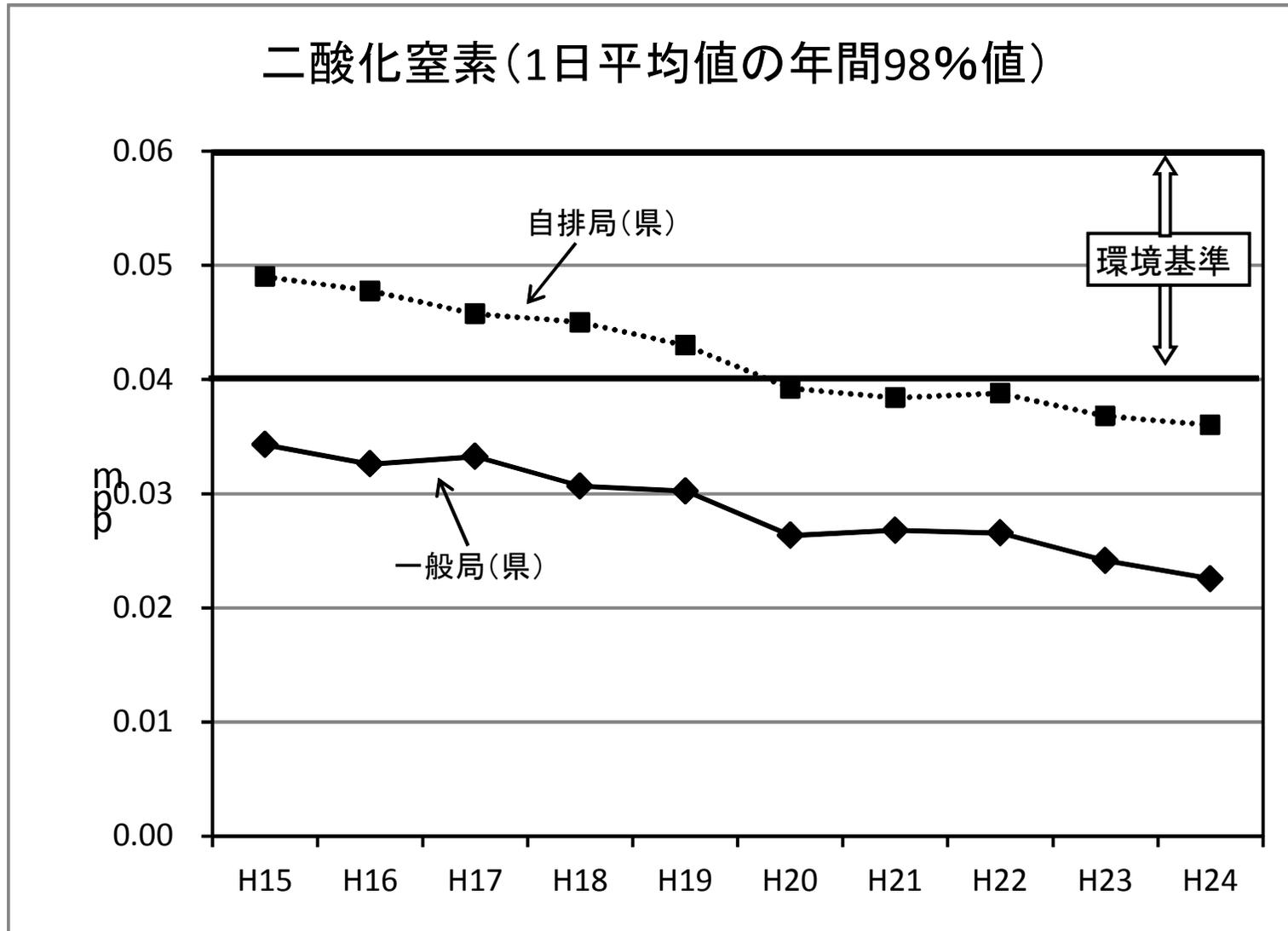
物質	環境上の条件
二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
浮遊粒子状物質 (SPM)	1時間値の1日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> 以下であること。
光化学オキシダント (O <sub>x</sub> )	1時間値が0.06ppm以下であること。
二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。
一酸化炭素 (CO)	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。
微小粒子状物質 (PM <sub>2.5</sub> )	1年平均値が15μg/m <sup>3</sup> 以下(長期基準)であり、かつ、1日平均値が35μg/m <sup>3</sup> 以下(短期基準)であること。

## 平成24年度環境基準達成状況

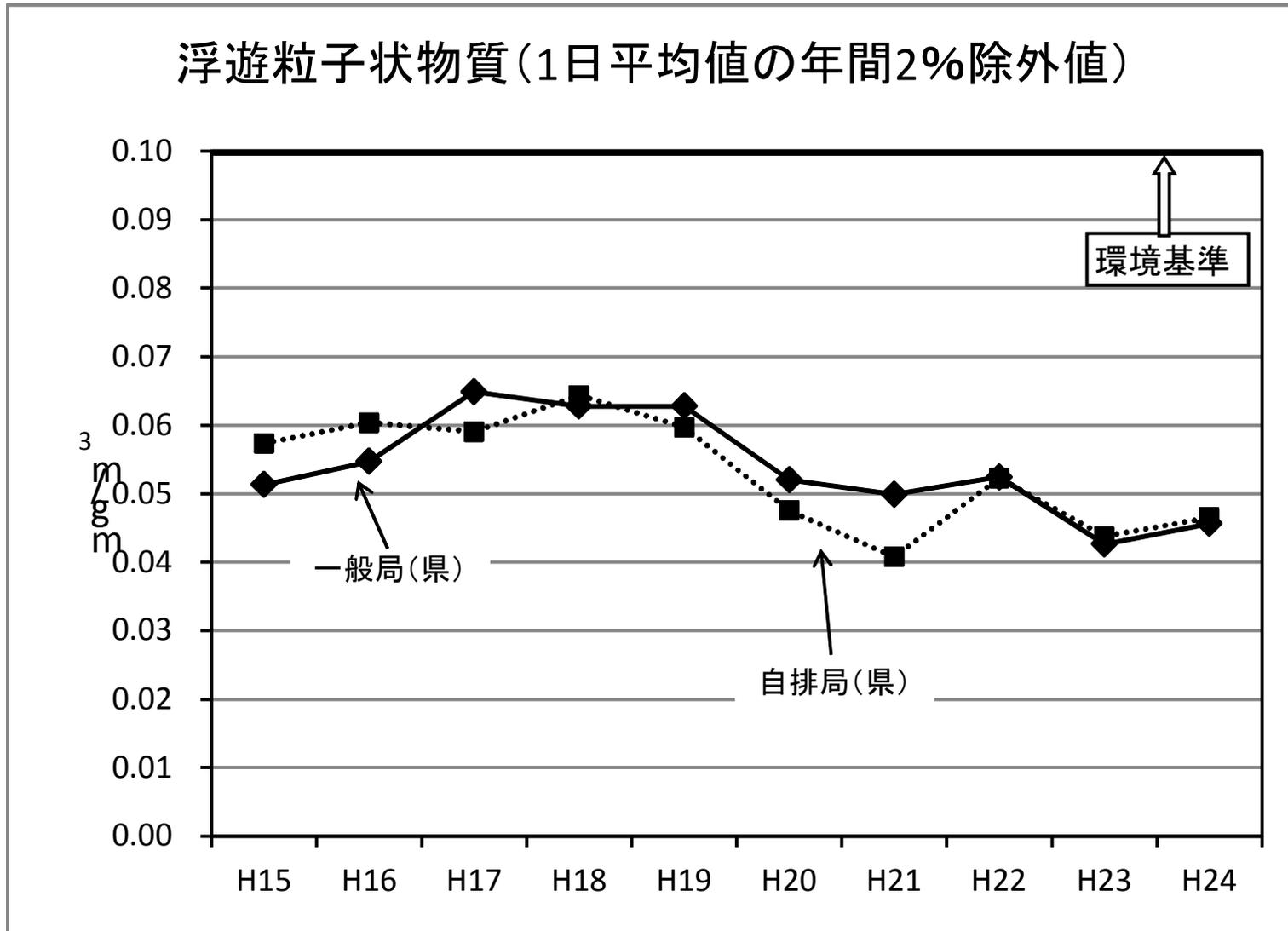
項 目	一般局		自排局	
	測定局数	達成局数	測定局数	達成局数
二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	9	9	4	4
浮遊粒子状物質 (SPM)	9	9	4	4
光化学オキシダント (O <sub>x</sub> )	11	0	3	0
二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	6	6	1	1
一酸化炭素 (CO)	—	—	4	4
微小粒子状物質 (PM2.5)	5	3※	2	0※

※長期基準で達成したが短期基準で非達成

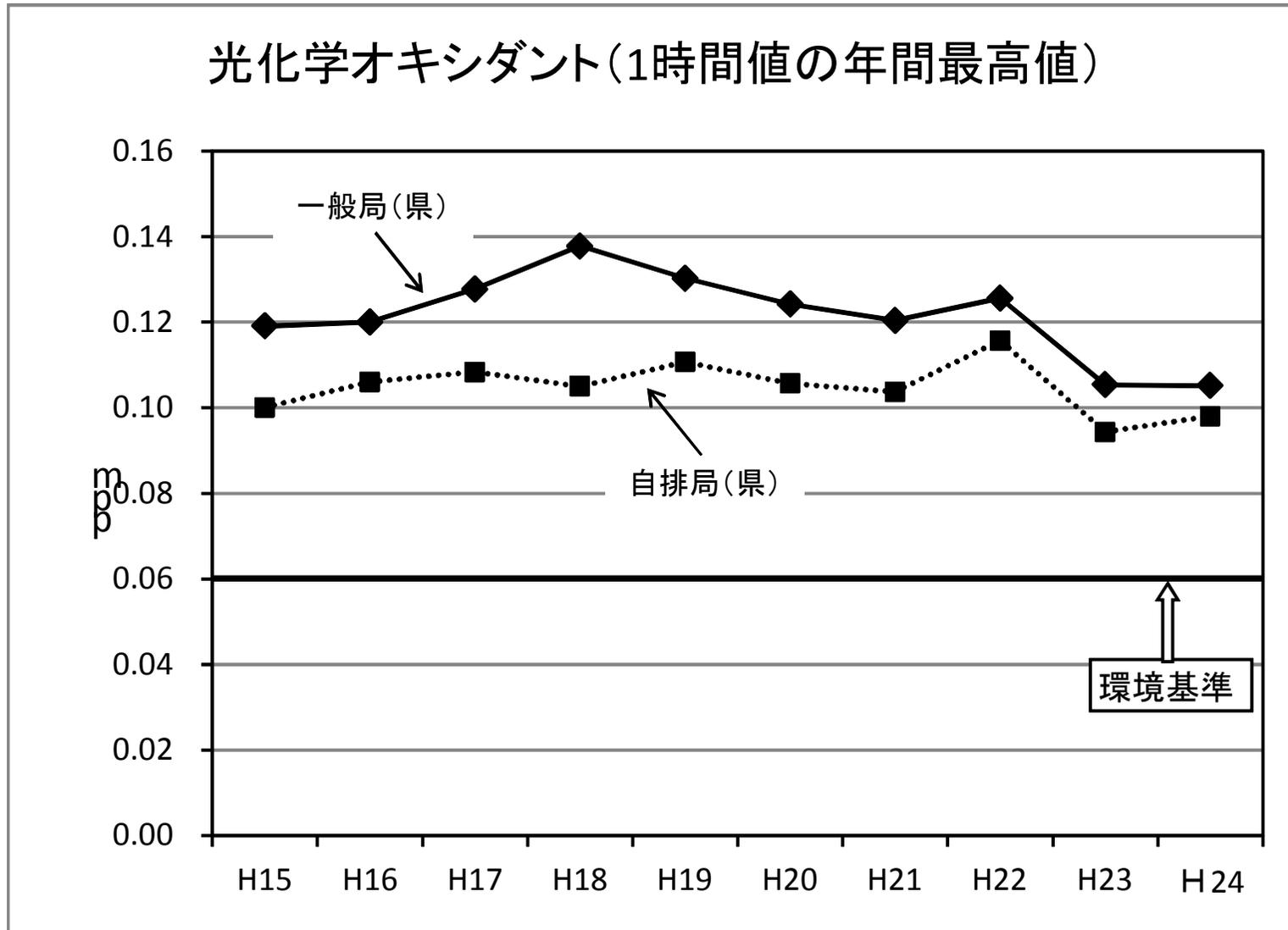
# 経年変化



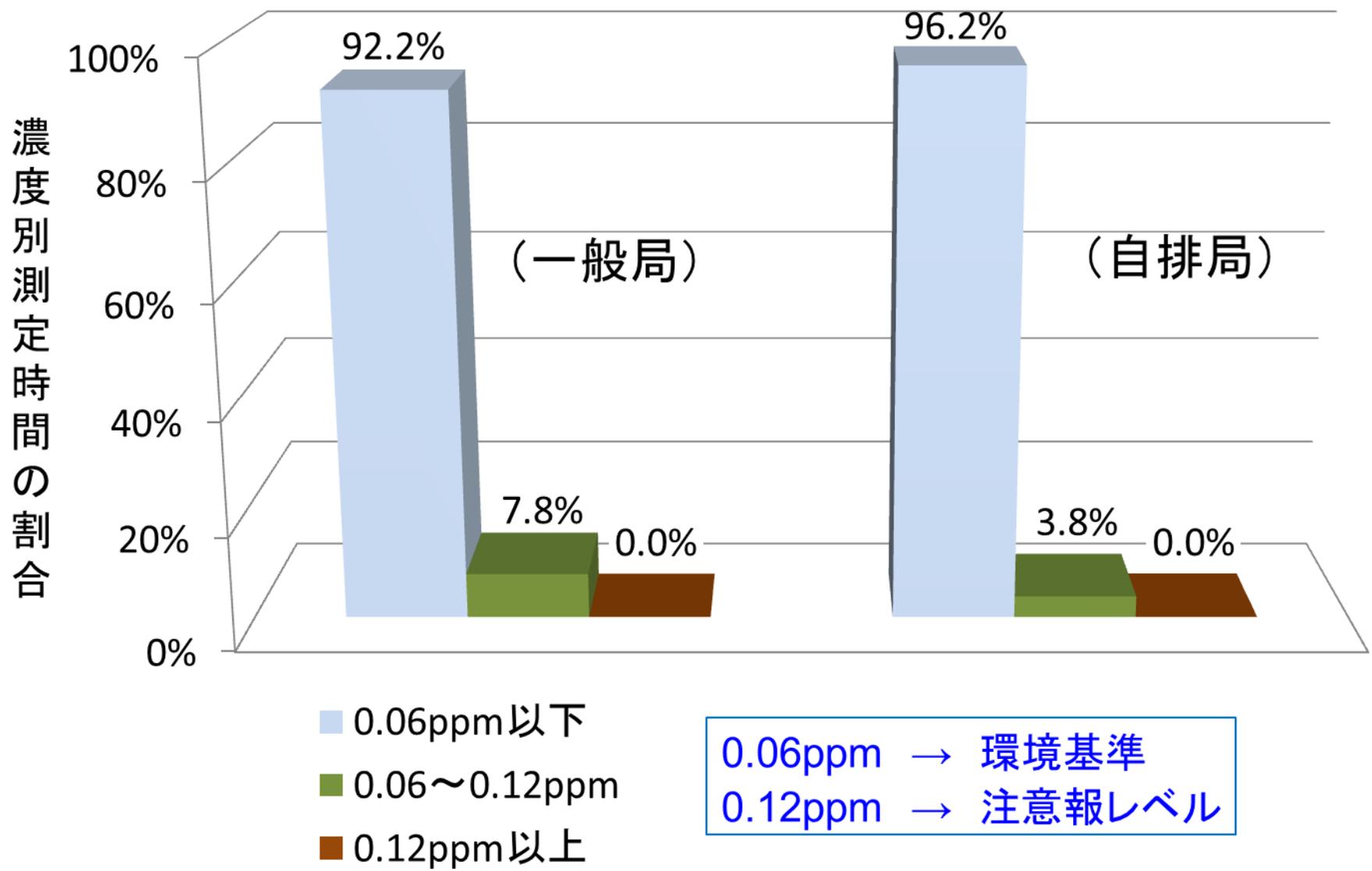
# 経年変化



# 経年変化



# 光化学オキシダント(昼間の1時間値)の濃度レベル別割合



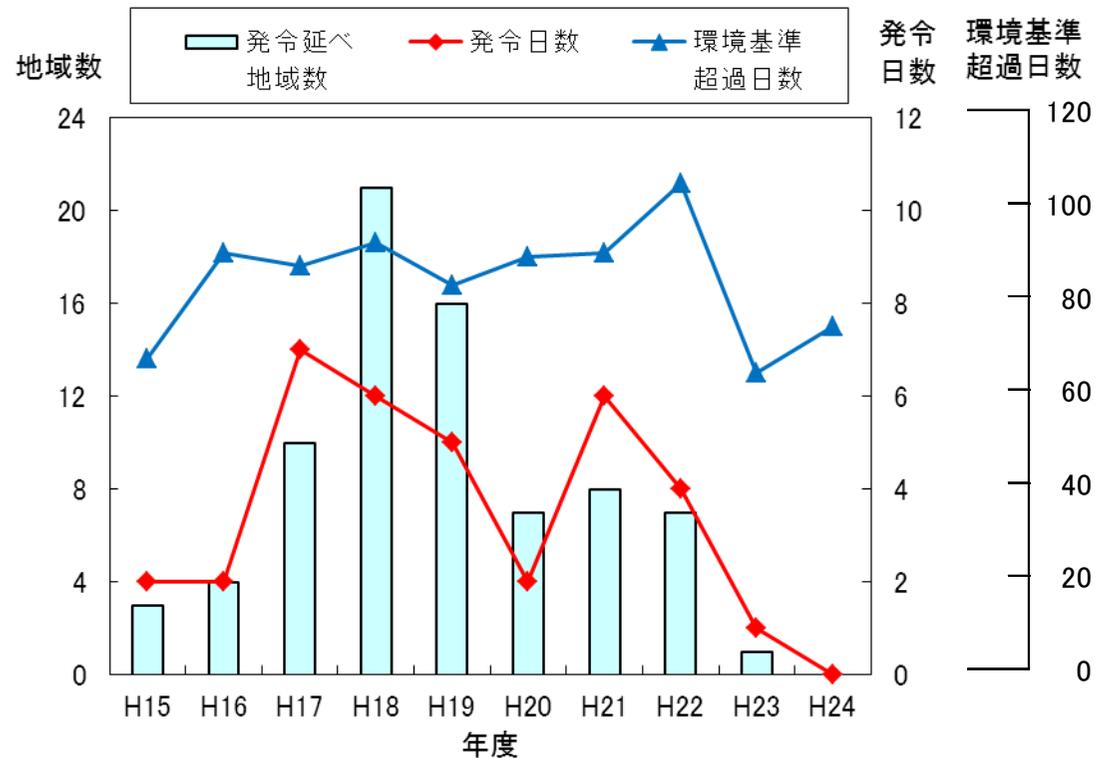
# 光化学スモッグ注意報

## ● 光化学スモッグ注意報発令基準

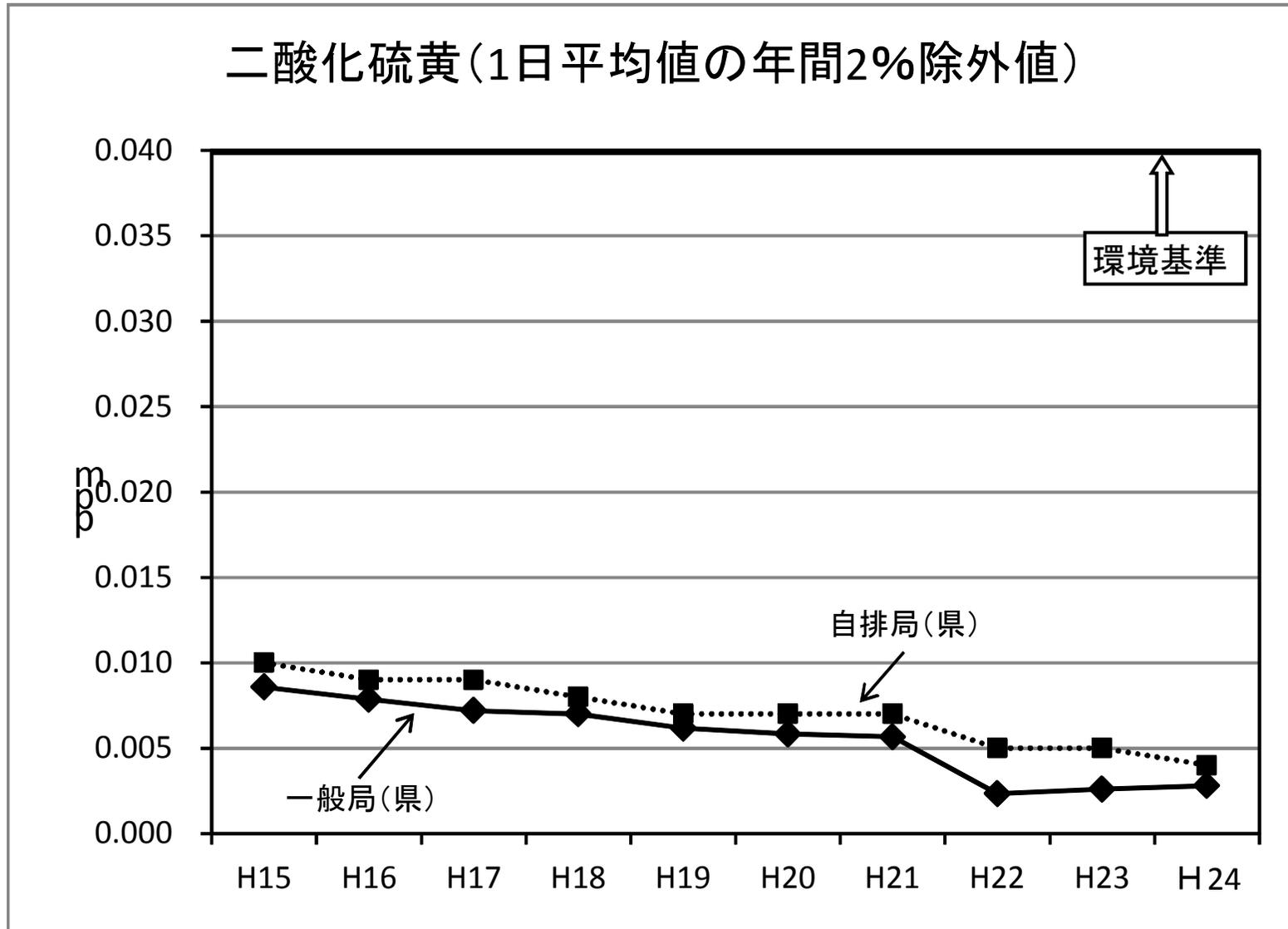
- ◆ オキシダント濃度の 1時間値が0.12ppm以上になり、気象条件から見て、その濃度が継続すると認められたとき。

## ● 発令日数の推移

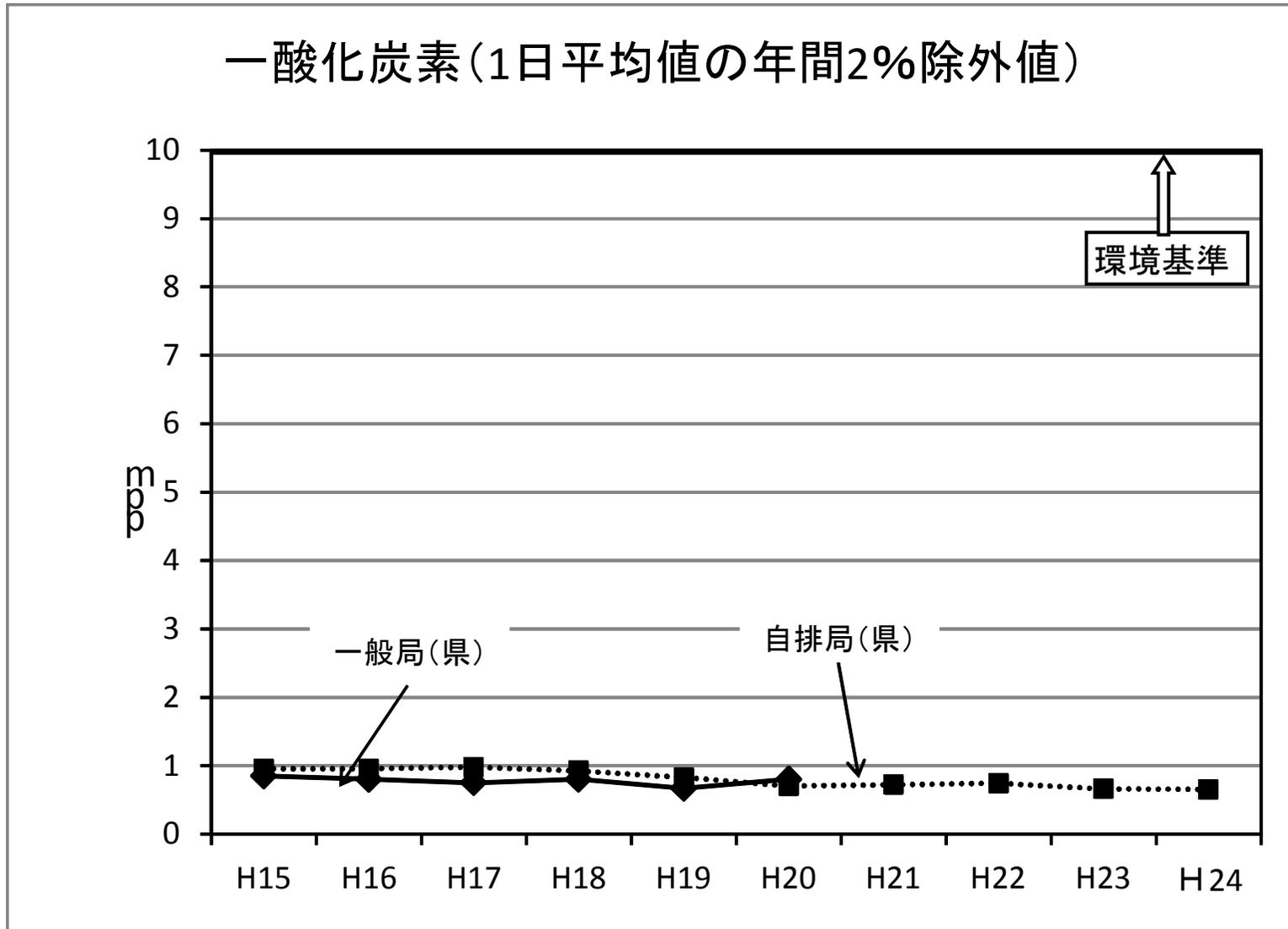
- ◆ 平成24年度：  
発令なし。
- ◆ 平成25年度：  
(7月3日現在)  
発令なし。



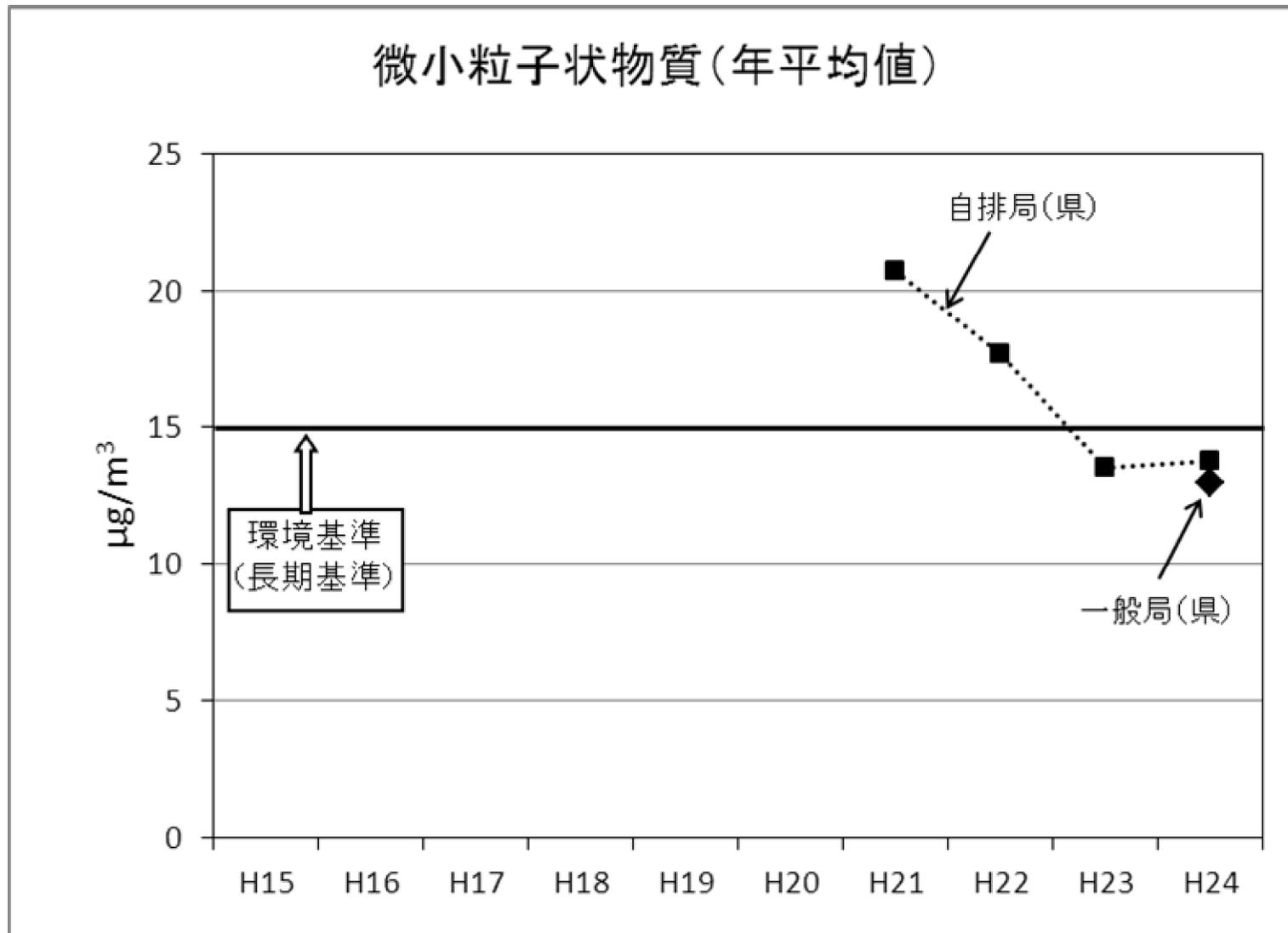
# 経年変化



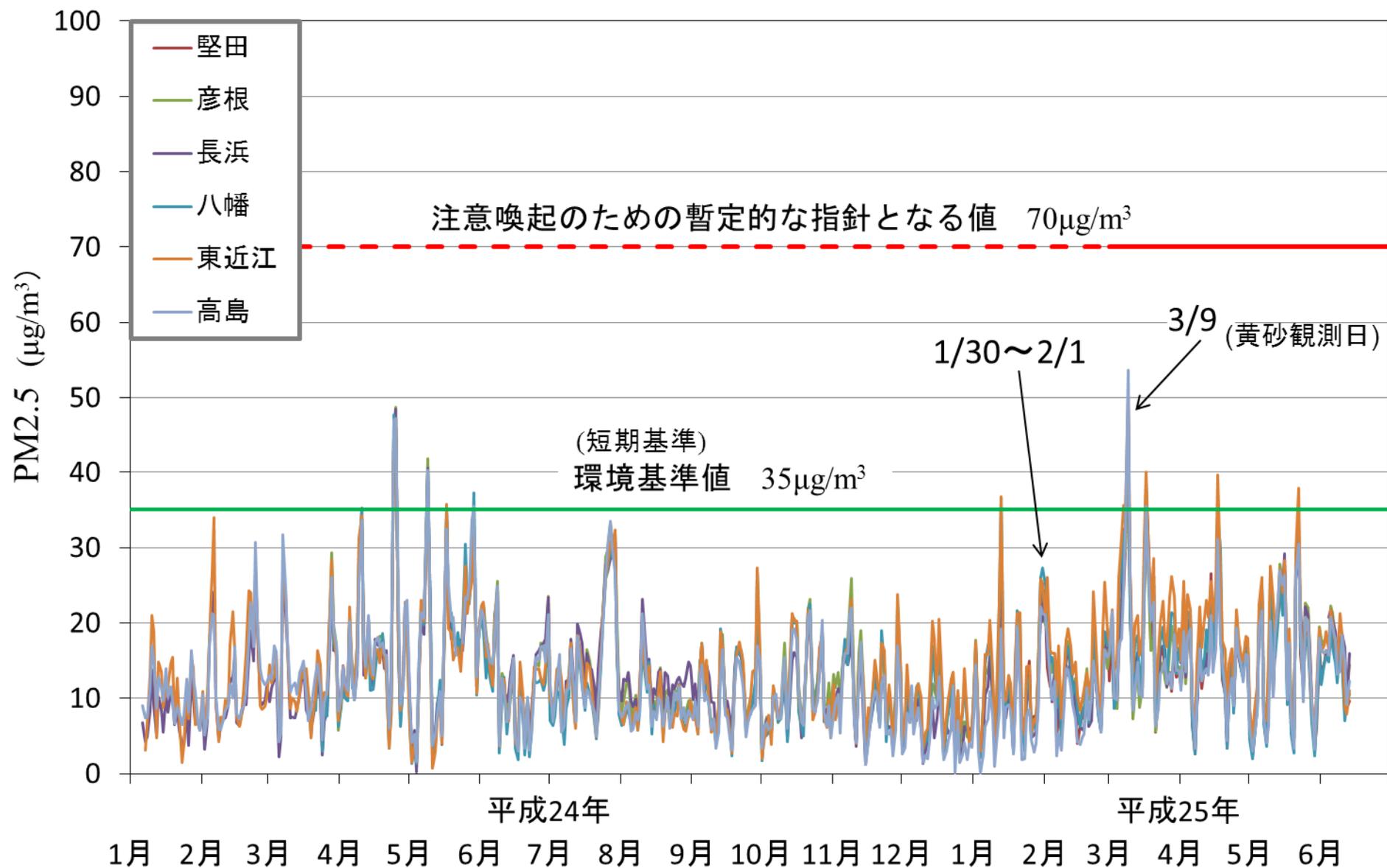
# 経年変化



# 経年変化



# 県内の一般局のPM2.5 日平均値の推移



# 有害大気汚染物質モニタリング調査の概要

## ● 調査場所

### ◆ 一般環境

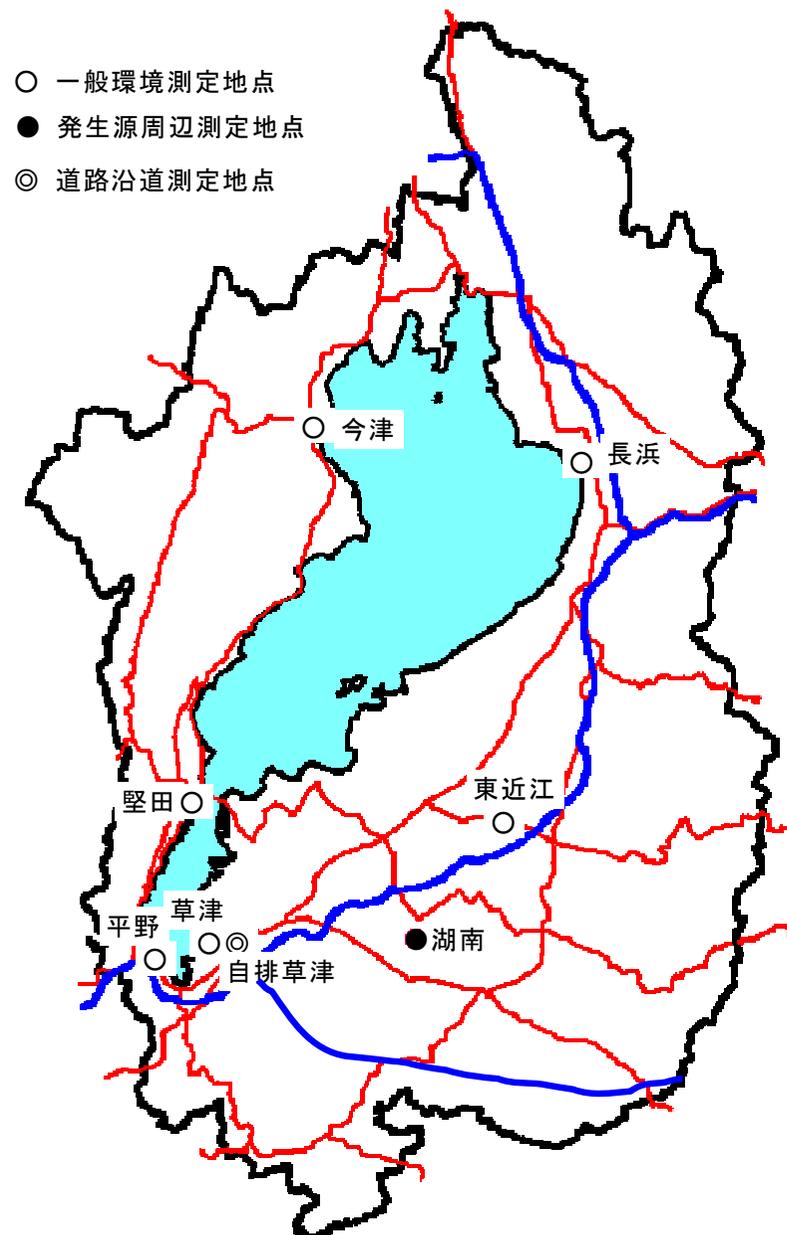
6 地点（県 5 地点）  
（大津市 1 地点）

### ◆ 発生源周辺

1 地点（県 1 地点）

### ◆ 道路沿道

1 地点（県 1 地点）



# 有害大気汚染物質モニタリング調査の概要

- 測定項目：優先取り組み物質 21 物質（地点によって異なる。）

- ◆ VOC 14 種

ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、アクリロニトリル、塩化ビニルモノマー、クロロホルム、1, 2-ジクロロエタン、1, 3-ブタジエン、塩化メチル、トルエン、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、酸化エチレン

- ◆ 金属類 6 種

ベリリウム、マンガン、ニッケル、クロム、ヒ素、水銀

- ◆ 多環芳香族炭化水素類 1 種

ベンゾ [a] ピレン

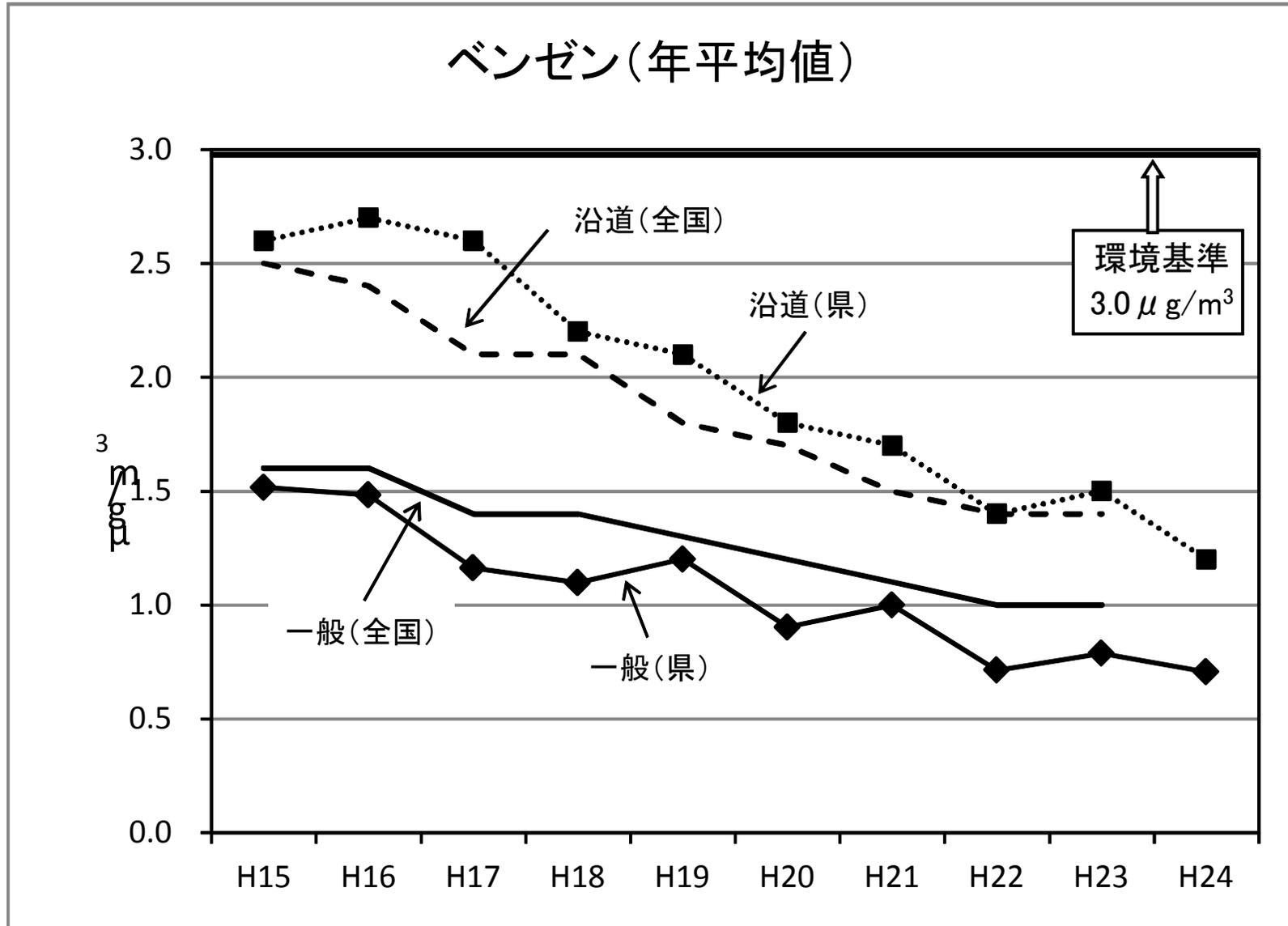
- 測定回数：年 1 2 回

# 平成24年度調査結果(1)

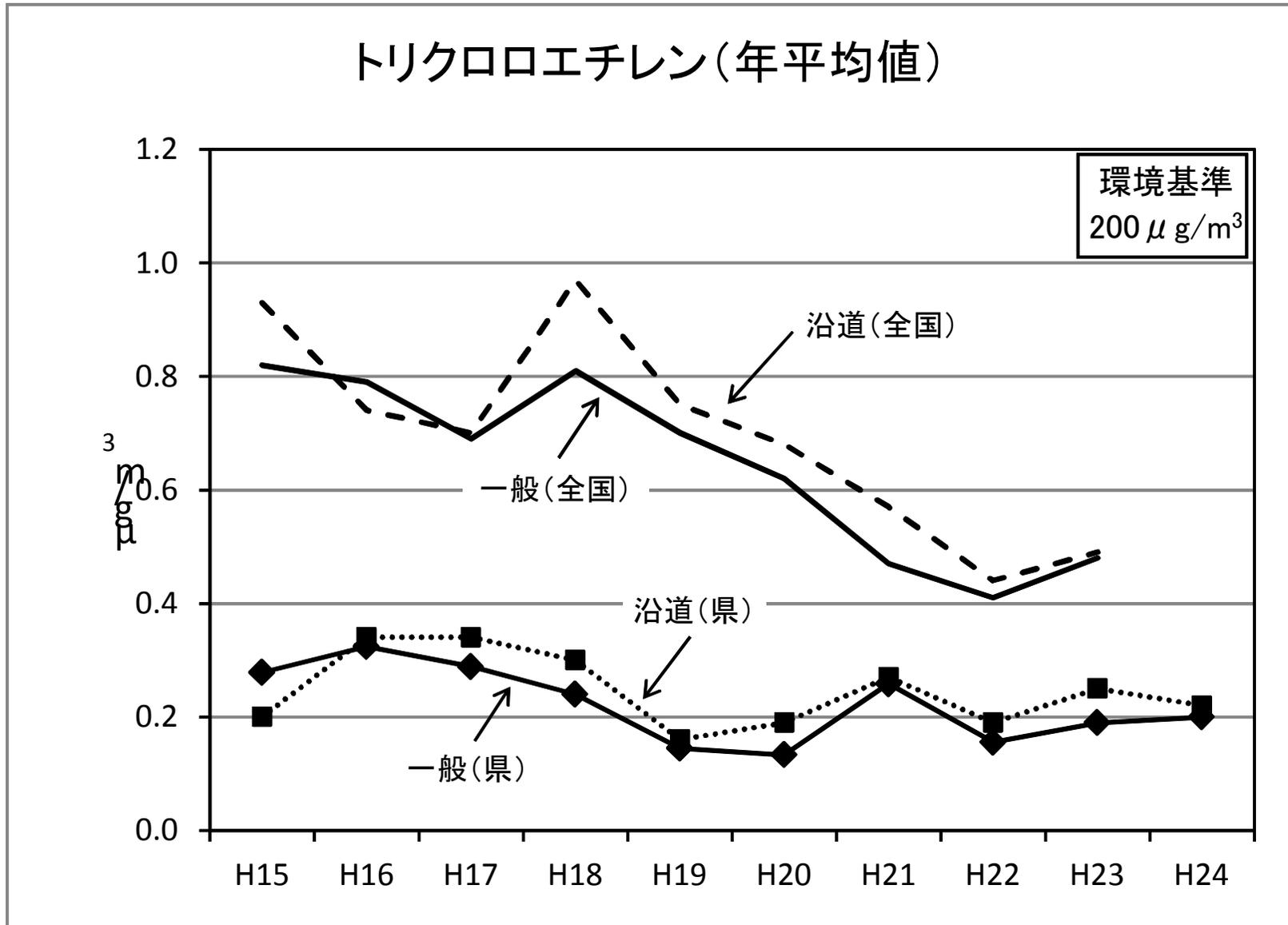
- 環境基準が設定されている物質

物質名	測定地点数	環境基準達成地点数	全地点平均値 (年平均値)	環境基準 (年平均値)
ベンゼン	8	8	0.80 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	3 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
トリクロロエチレン	8	8	0.20 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	200 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
テトラクロロエチレン	8	8	0.21 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	200 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
ジクロロメタン	8	8	1.0 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	150 $\mu\text{g}/\text{m}^3$

# 経年変化

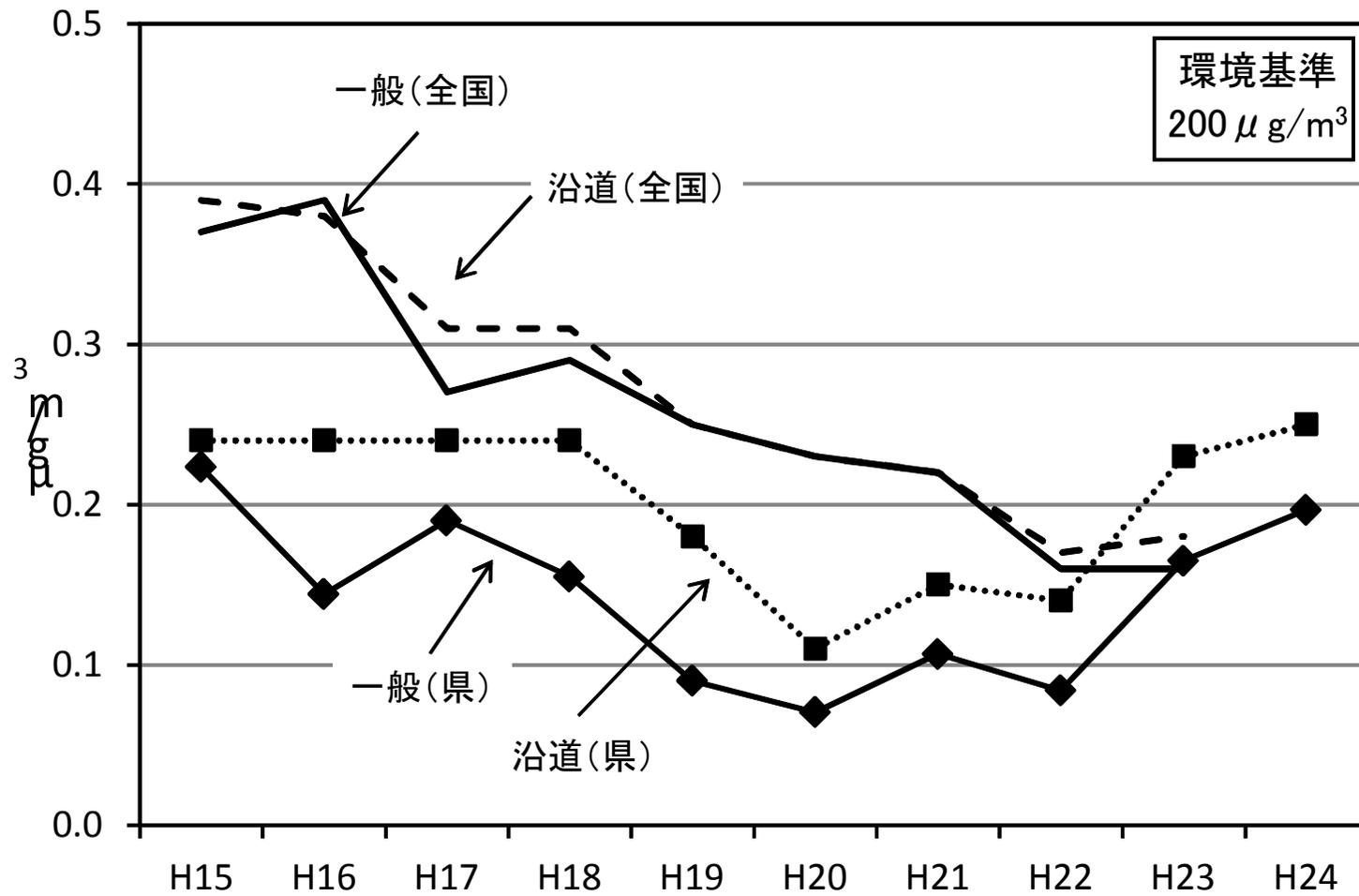


# 経年変化

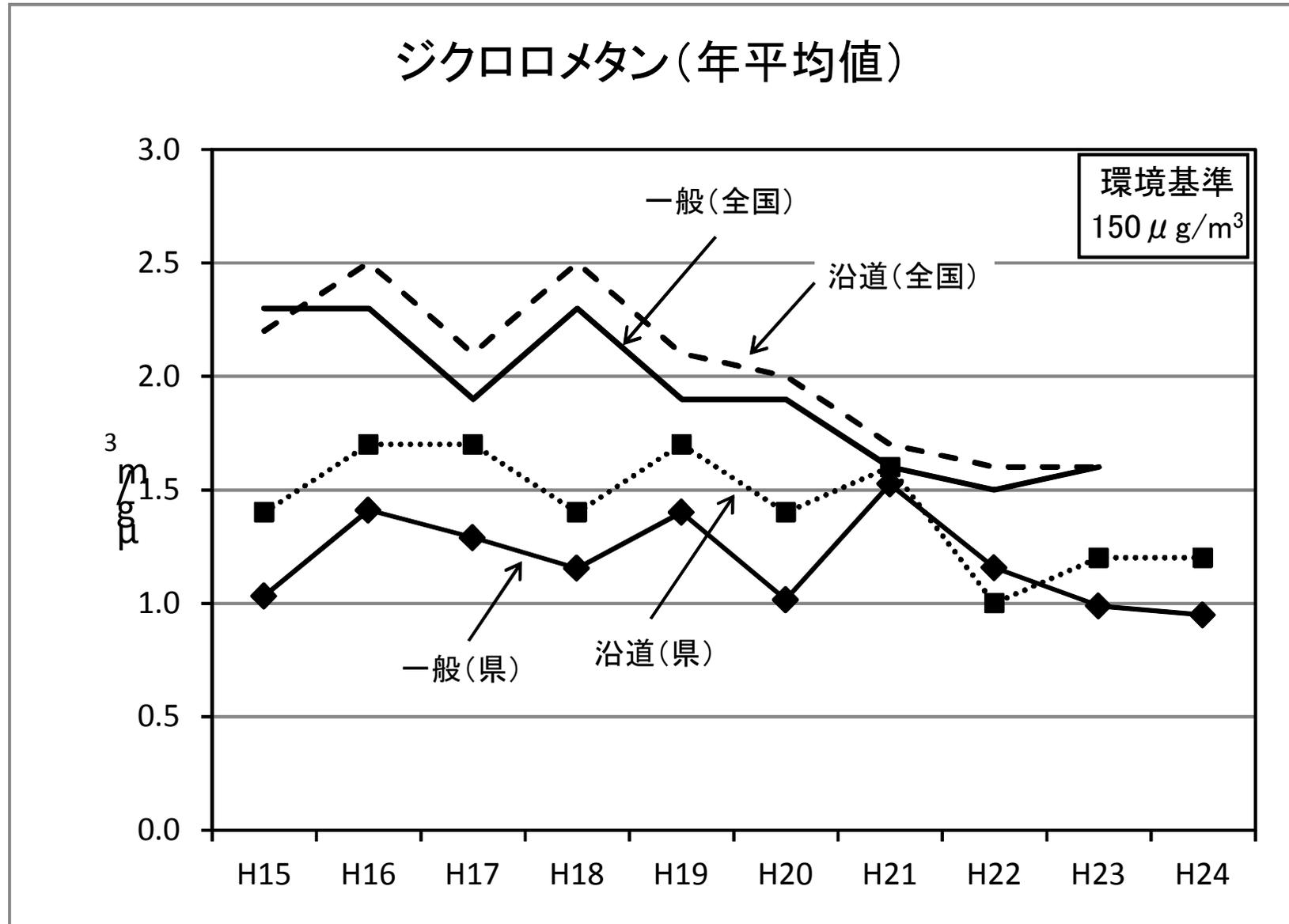


# 経年変化

## テトラクロロエチレン(年平均値)



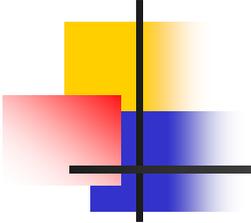
# 経年変化



## 平成24年度調査結果(2)

- 指針値が設定されている物質

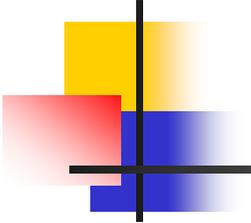
物質名	測定地点数	指針値達成地点数	全地点平均値 (年平均値)	環境基準 (年平均値)
アクリロニトリル	8	8	0.063 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	2 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
塩化ビニルモノマー	8	8	0.033 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	10 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
クロロホルム	8	8	0.18 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	18 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
1,2-ジクロロエタン	8	8	0.16 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	1.6 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
水銀及びその化合物	7	7	2.5ng-Hg/ $\text{m}^3$	40ng-Hg/ $\text{m}^3$
ニッケル化合物	7	7	1.4ng-Ni/ $\text{m}^3$	25ng-Ni/ $\text{m}^3$
ヒ素及びその化合物	7	7	0.92ng-As/ $\text{m}^3$	6ng-As/ $\text{m}^3$
1,3-ブタジエン	8	8	0.12 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	2.5 $\mu\text{g}/\text{m}^3$



## 平成24年度大気汚染状況まとめ(1)

---

- 平成24年度の大気常時監視の結果、環境基準設定物質については、光化学オキシダント(全局)および微小粒子状物質(八幡局、東近江局、逢坂局、自排草津局)を除くとすべて**環境基準を達成**していた。経年変化を見ると、おおむね**横ばい**ないし**減少**の傾向であった。
- 光化学オキシダントについては、依然として全局で環境基準未達成の状況が続いており、光化学スモッグ注意報を発令するレベルまで濃度が上昇する状況にあることから、今後とも濃度推移を注視していく。



## 平成24年度大気汚染状況まとめ(2)

---

- 微小粒子状物質(PM2.5)については、長期基準では全局環境基準を達成したものの、短期基準においては半数強の局で未達成であった。
- 有害大気汚染物質の環境基準値・指針値設定物質については、すべての項目で**設定値を下回った**。